

福祉避難所運営訓練 —災害救助法の活用を目指して—

大阪市鶴見区社会福祉協議会

鶴見区における取り組み

防災マップを作成

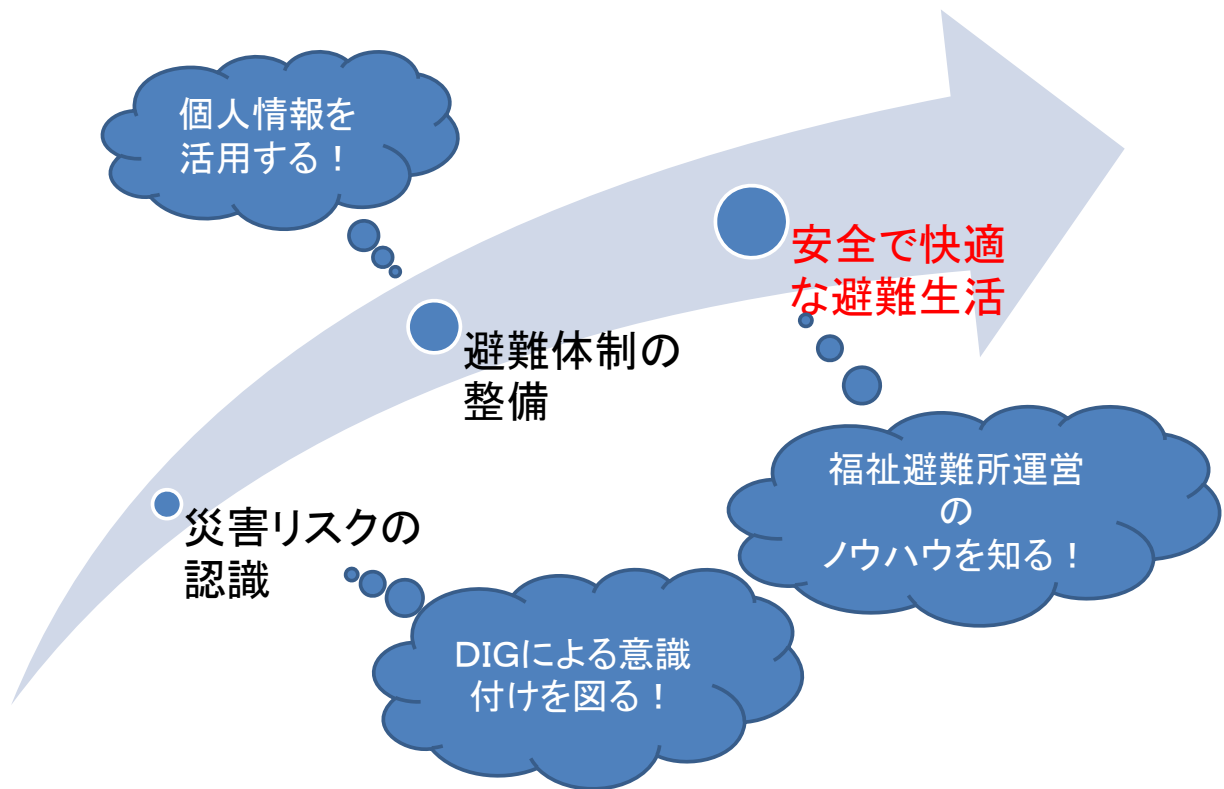
自主防災リーダー研修会の開催

災害図上訓練の実施

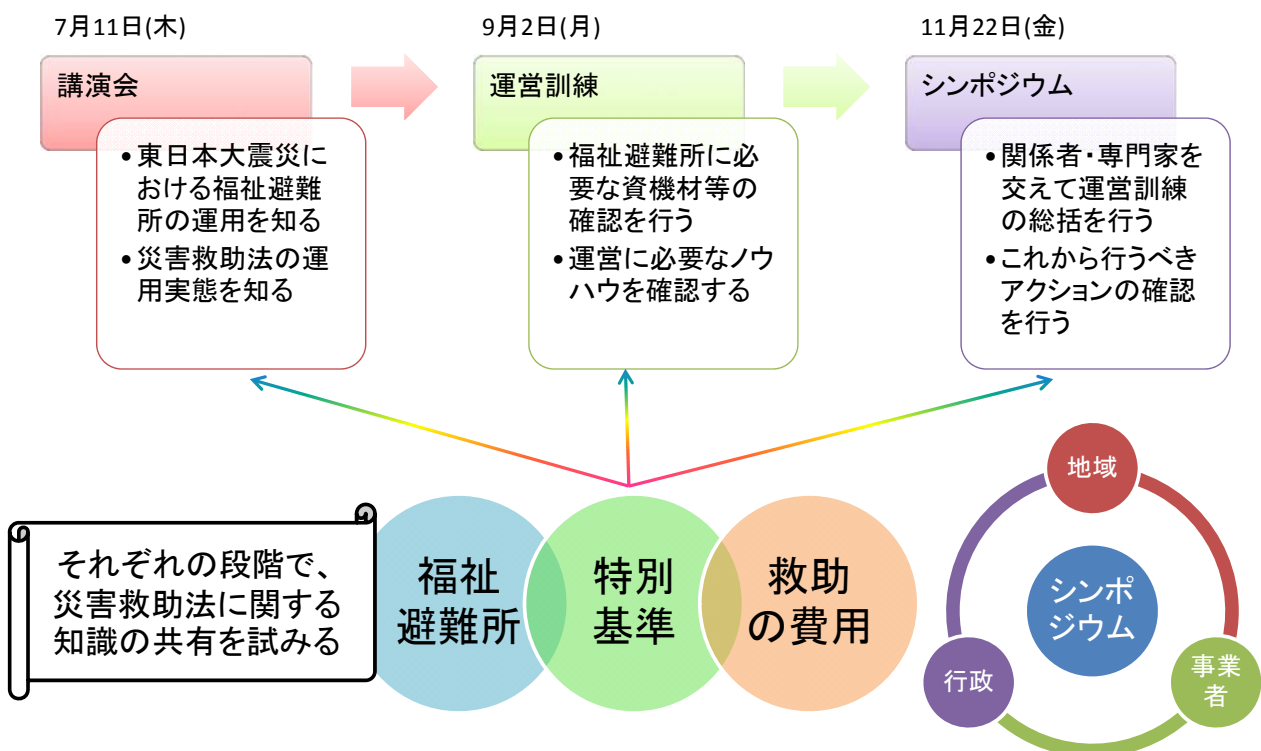
避難所開設運営訓練の実施

まちなか防災訓練の実施

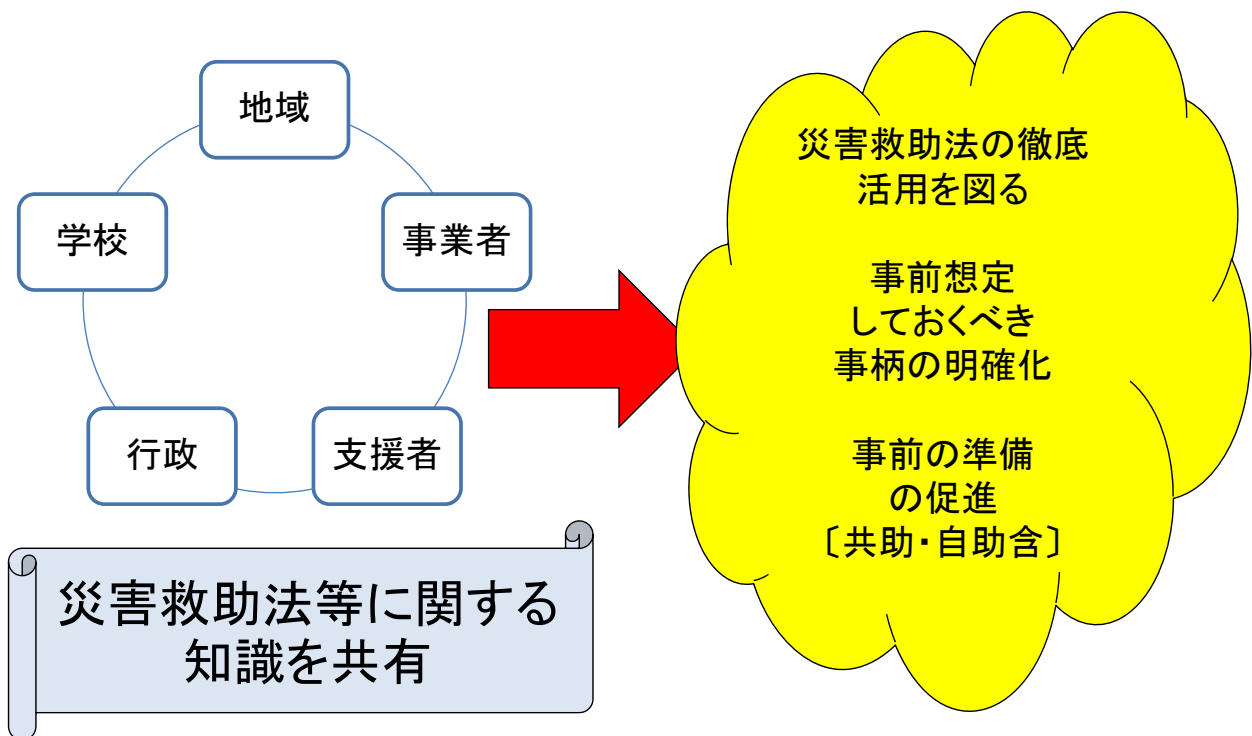
私たちが目指すべき到達点は.....



チャレンジプランの全体像



救助法に関する法知識の共有イメージ



福祉避難所の現状と課題

講演会の実施

黒田裕子氏の講演



- NPO法人 阪神高齢者障害者・支援ネットワーク理事長
- テーマ 避難所における要援護者支援のあり方

阿部一彦氏の講演

- 仙台市障害者福祉協会 会長
- 東日本大震災における福祉避難所



講演のポイント

普段から地域にいる要援護者を意識

一般避難所でも要援護者を受け入れる

災害時要援護者トリアージ

福祉避難所での介護・看護の重要性

講演のポイント

障害者の把握の難しさ

一般避難所には来られなかった障害者

介護支援者の確保 物資の確保

災害前からの協力体制の重要性

福祉施設職員による

福祉避難所運営訓練

訓練に向けての準備

社協—福祉施設—行政の間で数回の打ち合わせ

今回の避難訓練のねらいを確認

被害想定 避難者等 訓練シナリオの作成

避難者受入のカルテ 避難所運営台帳

大分県社協 村野淳子氏からアドバイスを受ける

想定シナリオ

被害想定

- 東南海・南海地震を想定
- 施設は被災するが、建物は無事 ライフラインは停止

災対本部との連携

- 災対本部と携帯電話or無線で連絡を取り合う
- 施設の状況や受入可能人数の確認等

避難者の受け入れ

- 3人を受け入れることになった

避難者の想定

一人目

- 脳梗塞の後遺症がある 介護度 1
- 地域役員に車いすで連れてこられた

二人目

- どんよりとした認知症 胃潰瘍 介護度 2
- 妻が車いすで連れてくる 妻は狭心症(軽度) パニック状態

三人目

- 老衰、便秘症 介護度 4
- 施設職員に連れてこられる

訓練開始前



区災対本部とのやりとり



避難者への聞き取り



避難者へのケア



地域防災訓練



振り返りで抽出された課題

連絡

トランシーバーが聞こえない

施策本部へ無線連絡での情報聞きとれにくかった。名前がわからなかった。1度の連絡では情報を書きとれなかった。

福祉避難所運営者の立場から

受け入れ

何人受け入れたかを本部へ伝える。

状況がよくわからなかった。

受け入れも人数に応じてスタッフの確保や、とび入りの避難者が来た場合の対応が必要。

実際は飛び込みで入ってくる人は多いと思う。どこまで線を引くのか？

病院受け入れを頼んだが、実際ではむずかしいだろう。

24時間見守れるスタッフの確保が必要。

とび込みの人を断れるのか？

職員の動ける人の数、確認必要。

区より

災害発生時の福祉施設と区災対本部との連携。

受入者の情報をあまり把握しないまま、施設に依頼してしまった。

緊急入所施設と福祉避難所の違いについて

介護支援者、10名で1人で大丈夫か？

動線・intake

1F受け入れる？感染防止になる。2F以上の階に受け入れると職員が動きやすい

用紙は緊急時のADL等最低限のみのききとり→それ以外の情報

介護について

担当の方から離れてしまった。

ベットをギャジアップしたい時に電気がないのでできなかった。

興奮状態にあるだろうと思うので、スタッフ側がおちつくこと

3人目の方は発語ができないのに、声かけをしてしまった。

保存食でミキサー食に対応が可能か？

興奮した方を受け入れた際、施設に入所されている方が、ますます不安になる。

妻のベッド必要だった。ベッドがわりに使える。

枕や布団も必要だった。

名札かけて利用者をまちがわないようにできた。

要援護者でもできることはしてもらい必要がある。

徘徊している人、受け入れむずかしい。→中の人も危険！

今後の取り組み

シンポジウムをふまえて



- ・福祉避難所開設訓練については、DVDによりイメージができ訓練を希望する施設が出てきている。
- ・地域住民・行政と連携した防災訓練への参加による福祉避難所機能の周知。